R4.3.31 奄美新聞
住用小が新聞にのりました「卒業制作記念」

又野峰誓さんからリュウキュウアユの提供がありました

「るき」「ゆり」と名前発表

卒業生がリュウキュウアユのイラスト　住用小

奄美市の住用小学校（久永浩幸校長）の6年生3人が、卒業記念としてリュウキュウアユのイラストを制作しました。卒業前の22日、同校で発表会がありました。在校生や先生たちの前でイラストを掲げ、名前を発表。同時にこの日、マングローブパークから提供されたリュウキュウアユの飼育が始まります。

住用小は総合学習の一環として、2006年からリュウキュウアユの生態観察をしています。昨年5月に「野生生物保護功労者表彰」で文部科学大臣賞を受賞、今年1月に「いきいき教育活動表彰」を県から受賞しました。

卒業生は川内蓮斗くん、濱本紫音さん、原心葉さんの3人。イラストに描いた2匹のリュウキュウアユを、るき（雄）・ゆり（雌）と名付け、その由来などを発表しました。また、校舎前のタイムカプセルにも2匹のイラストを描きました。

「このイラストを見て、奄美や住用がもっと明るくなってほしい」「皆さん2匹をかわいがってください」と3人は、リュウキュウアユに込めた思いを一緒に発表しました。

また、リュウキュウアユ保護事業・養殖技術者の又野峰誓さん(43)から、10匹のリュウキュウアユが同校に提供されました。又野さんは「マングローブパークで養殖されたリュウキュウアユです。川に放流できないので、ここでかわいがってください」と児童たちに呼び掛けました。

水槽の中で元気に泳ぐリュウキュウアユに、児童たちは大喜びです。

久永校長は、「役勝川でもめったに見ることができない。ここで見て学んで実感してほしい。そしてリュウキュウアユのことを多くの人に知ってほしい」と話しました。

タイムカプセルに描かれたリュウキュウアユの『ゆり』